

仙台大学 広報室



# Monthly Report

## TOKYO2020に被災地の視点を届けよう！ 2015国際スポーツ情報カンファレンス開催



2015国際スポーツ情報カンファレンスの様子=河北新報社

TOKYOオリンピック・パラリンピックまであと5年。被災からの復興が大きなテーマとなっている両大会に向け被災地の視点を考えようと、3月15日（日）に河北新報社ホール（仙台市青葉区）で「2015国際スポーツ情報カンファレンス」（仙台大学主催）が開催されました。会場にはTOKYO2020組織委員会、日本スポーツ振興センター、大学関係者、行政関係者、ボランティアグループなど多数の方が参加し、被災地の「何を」オリンピック・パラリンピックに繋げるか報告と話し合いが行われました。

はじめに組織委員会戦略広報課長の高谷正哲氏から、現在の準備状況や被災地との関わりについて被災地に残せるものがないか現地を訪れ考えていると報告がありました。

また、日本スポーツ振興センター スポーツ開発事業推進部長の勝田隆氏は、スポーツ界で問題となっているIntegrity（健全性・高潔性）は、まさに震災で被害を受けた被災者が示した日本人ならではの礼儀正しさの中にあると話し、秩序ある大会運営が世界に示すものは大きいと力説しました。

被災地である石巻市体育協会会長の伊藤和男氏は、被災地には大勢のオリンピックが励ましに訪れてくれた、聖火台の貸与も受けた。オリンピック・パラリンピックではスポーツの力と価値を伝えていきたい。復興マラソンも計画中であると報告しました。

【2面に続く】

### < 目 次 >

TOKYO2020に被災地の視点を届けよう！2015国際スポーツ情報カンファレンス開催	1
606名が社会に巣立つ—仙台大学卒業式・大学院修了式	2
樹氷を溶かすほどの熱気の中、平成26年度スキー実習が無事終了！	3
平成26年度カリフォルニア州立大学ロングビーチ校日米スポーツ科学事情比較セミナー	5
本学のPR看板広告—JR仙台駅2階のクイックビジョンがリニューアル	7
学生の競技結果等	8

学生の活躍や、取り組みをご存知でしたら  
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供していきたいと考えております。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、広報室までご一報ください。

#### 広報室

TEL 0224-55-1802

FAX 0224-57-2769

Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

最後に登壇したシドニーオリンピック100m背泳銀メダリストの中村真衣氏は、自身が体験した中越地震とアスリートの想い、アメリカ留学中の社会貢献とアスリートの関係を熱く語りました。

最後に4人が一堂に登壇し、本学の栗木一博教授のコーディネートで、TOKYO2020と震災復興・被災地の視点を討論しました。



TOKYO2020には「被災地からオリンピックを輩出した」など数々の提案が出ましたが、本学の専門教養演習でオリンピックを取り上げた学生から「オリンピック選手を被災地に招き、災害と復興を学ぶCEP（文化教育プログラム）を実施して帰国は仙台空港からではどうだろうか」「ハンマー投げ選手に被災地の浜辺でフォームが似ている投網の世界選手権を行っては」との提案がなされ、これを即座に高谷氏がTwitterで投げかけたところ室伏広治選手から「これは復興に向けて面白そうな企画ですね！ハンマー投げでも何も獲得できないけど、投網なら一網打尽で魚取れますね。」との返信がカンファレンス開催中に届きました。

TOKYO2020まであと5年。今後も東北・北海道唯一の体育系大学である仙台大学が果たすべき役割を考え、スポーツが震災復興に繋がる取り組みを考えて参ります。

＜報 告：仙台大学スポーツ情報マスメディア研究会 溝上拓志＞

### ＜仙台大生の提案による高谷氏と室伏選手とのTwitterでのやり取り＞

**Masa Takaya 高谷正哲 @masatakaya** · 3月15日  
ハンマーで金メダル！投げ網で魚！2020年、よろしくお願いたしますw。"@KojiMurofushi: @masatakaya ハンマー投げて何も獲得できないけど、投網なら一網打尽で魚取れますね。"

**Masa Takaya 高谷正哲さんがリツイート**  
**Koji Murofushi @KojiMurofushi** · 3月15日  
@masatakaya ハンマー投げて何も獲得できないけど、投網なら一網打尽で魚取れますね。

**Masa Takaya 高谷正哲さんがリツイート**  
**Koji Murofushi @KojiMurofushi** · 3月15日  
@masatakaya これは復興に向けて面白そうな企画ですね！

**Masa Takaya 高谷正哲 @masatakaya** · 3月15日  
2015国際スポーツ情報カンファレンス、第1部終了。楽しみながらも、東京2020の現在についてお話ししました。続いて第2部。石巻体育協会会長の伊藤和男氏と、オリンピックの中村真衣さん @maiswim が登壇します。

**Masa Takaya 高谷正哲 @masatakaya** · 3月15日  
室伏さん、@KojiMurofushi 仙台大学の若者からの提案です。投網世界一決定戦 in2020。#Tokyo2020



## 606名が社会に巣立つ—仙台大学卒業式・大学院修了式



阿部学長から「学位記」を受け取る大学院総代の玉崎千尋さん＝仙台大学第五体育館

3月14日（土）、本学第五体育館で「平成26年度 仙台大学卒業式・大学院修了式」（第45回体育学部「卒業証書・学位記」授与式並びに第16回大学院「学位記」授与式）が挙行されました。体育学部582名（体育学科343名・健康福祉学科96名・運動栄養学科70名・スポーツ情報マスメディア学科36名・現代武道学科37名）及び台湾の台東大学との国際交流提携に基づく3回目のダブルディグリー制1名、並びに大学院スポーツ科学研究科23名のあわせて606名が所定の課程を修了し、

「卒業証書・学位記」が授与され、社会に巣立ちました。

開式に先立ち、発生から4年となった「東日本大震災」で犠牲になった3名の学生、親族の方々、そして多くの方々のご冥福をお祈りし、会場内の方全員で黙とうを捧げました。

また、スポーツ競技や文化活動等において、特に顕著な功績を挙げた方を表彰する「平成26年度学生表彰式」も併せて行なわれ、「仙台大学学長賞」は

かのうりょうた  
ビーチバレーボール部の狩野僚太さん（体育学科4年一宮城・東北工業大学高校出身）他が、「日本介護

はなずみきわこ  
福祉士養成施設協会会長賞」は花角貴和子さん（健康福祉学科4年一仙台西高校出身）が、「全国栄養士

いちごうわか  
養成施設協会理事長賞」は一郷和歌さん（運動栄養学科4年一岩手・久慈高校出身）が受賞し、それぞれ阿部芳吉学長から賞状を授与されました。

式終了後には、謝恩会が行なわれ、卒業生と教職員・卒業生同士で思い出話に花を咲かせたり、記念撮影を行なうなど、別れを惜しみながら楽しいひとときを過ごしました。

## 樹氷を溶かすほどの熱気の中、平成26年度スキー実習が無事終了！



平成26年度「スキー実習Ⅰ」が、山形県蔵王温泉スキー場にて行われた。第一団は2月22日～25日、第二団は2月25日～2月28日、それぞれ3泊4日の日程で実施された。実習生は、8名から11名の男女・学科・部活混成班に振り分けられ総計354名（一団18班編成175名、二団18班編成179名）の参加となった。スキー滑走ではスキーの基礎技術と理論の習得、宿舎においては、集団生活における秩序と規律ある態度を身につけることを目的とした。スキーの指導は本学教員6名、インストラクター13名、TA1名、補助学生18名が指導にあたった。

実習は当初、天候面の不安もあったが、期間中は大きく崩れることなく、安全に行うことができた。今回の実習は、過去最多の人数の中行われたこともあり、スキー技術のレベルに差があり、実習開始初日は第一団、二団ともに約半数のグループがスキー板を着けて歩く等の基本的な動きに重点を置き実習を進めていた。しかしながら、二日目以降はみるみる上達を遂げ、あっという間に基本的な滑走技術を身に付け、最終日のデモンストレーションでは、各班が趣向を凝らし、見事な集団滑走を披露してくれた。特に、デモンストレーションの最後の決めポーズがうまくいった班の達成感に満ちた顔は、実習を運営する立場の教員として、大変嬉しいものであった。

最後に、これだけの大人数の実習でありながら、大きな事故なく実習を終えることができたのは、入念な準備と、指導にあたっていただいた教員、インストラクター、滞在期間中にお世話していただいた宿泊施設の関係者の皆様のおかげである。この場を借りて御礼を申し上げるとともに、本実習の報告としたい。

<報 告：助教 桑原康平>

## 仙台大学健康づくり運動サポーター事業 大学・地域評価会を開催



平成27年3月2日（月）に、柴田町・亘理町の行政担当者や参加者の代表者をお招きして、大学・地域評価会を開催しました。この評価会は、柴田町やその他近隣市町村の健康づくりに関する連携事業について、1年間の事業の実施状況や内容、派遣している健康づくり運動サポーター（以下、健サポ ※）の様子などについて振り返ることを目的として、毎年実施しています。

今回は本学の阿部学長を議長とし、橋本教授から平成26年度の事業報告及び健サポの資格認定状況について報告されました。

参加者の代表より、「来てくれる学生の印象はともよく、今後も多くの学生に来てもらいたい」と声をいただきました。また、柴田町の行政担当者より「健サポ上級の取得者数が減少傾向にあるため、多くの学生に上級をとってもらいたい」というご意見もいただきました。参加した健サポ上級のおおやまあきら

大山 諒さん（健康福祉学科4年）は「行政区のイベントを企画・運営させていただき、皆さんの協力により無事に成功させることができた。この経験をこれからの人生に活かしたい」と感想を述べました。

学生たちの実学の間として、本事業は非常に価値の高いものだと感じています。今後も多くの健サポを養成し、授業では身に付けることのできない実践力のある学生を輩出していきたいです。

<報 告：新助手 齋藤まり>

※本学独自の認定資格である健サポは、地域の健康づくりに貢献できる人材を育成することを目的とし、平成19年の養成開始から初級336名、中級57名、上級20名の述べ413名の健サポを輩出しています。

## 健康寿命100歳を目指す介護予防の運動教室を開催



つま先立ち運動を行なう様子=仙台大学

3月12日（水）、本学第四体育館1階演習室で、平成26年度柴田町特定高齢者介護予防事業「健康寿命100歳を目指す介護予防運動教室」（平成27年1月8日（木）～3月12日（木）毎週木曜日全10回）の最終回が開催され、柴田町船岡地区在住の65歳～91歳までの男女9名がご参加下さいました。同事業は、柴田町からの委託事業に対し、柴田町社会福祉協議会と仙台大学が運営協力を行なっています。同運動教室は、介護予防の取組みとして運動プログラムを提供し、運動器の機能向上を図り、いつまでも元気で日常生活が送れるようにすることを目的としています。

この日は、参加者の皆様の運動前の健康チェック（体調の聞き取り・血圧測定）を行なった後、本学の阿部芳吉学長が「一番最初の教室と比べて自分の体力がどのくらい伸びたか、伸びたところはさらに伸ばし、伸びなかった体力は考えて伸ばしていきましょう。学生と一緒に、笑顔で最後の運動教室を楽しんでほしい」と挨拶されました。

同運動教室では、本学の吉田享平さん（体育学科3年一宮城・名取高校出身）が、これまでの体力測定＜開眼片脚立ち・5m歩行・Timed up & Go（複合的動作能力）＞の説明を行ない、本学の柳澤麻里子新助手が「仙台大学方式トレーニング」の運動指導を担当。参加者の皆様は、健康づくり運動サポーターの資格取得を目指す本学の学生らと一緒に、後出しじゃんけんで頭の体操をしたり、足踏みやつま先立ち運動をしたり、椅子に座って脚の曲げ伸ばし運動をしたりするなどして楽しく運動を行ないました。

将来、養護教諭を目指している山家紹さん（健康福祉学科1年一宮城・白石高校出身）は「地元の方々との交流は、普通の大学生活では決して得られない貴重なものです。人前で話す力・コミュニケーション能力・会話力などを身に付けていきたいです」と意欲的に話しました。

## 平成26年度仙台大学学生表彰式



阿部学長からスポーツ功労賞の賞状を受け取る男子サッカー部の児玉昇主将  
=仙台大学KMCH大会議室

3月2日（月）、本学「鹿島メモリアルクラブハウス（通称：KMCH）大会議室」で「平成26年度仙台大学学生表彰式」が行なわれ、女子柔道部・硬式野球部・漕艇部・男子サッカー部・ビーチバレーボール部の5団体及び9名（硬式野球部1名・体操競技部1名・女子柔道部5名・陸上競技部1名・女子フロアボール部1名）がスポーツ功労賞を受賞しました。

阿部学長からは「基本的なことをしっかり練習し、色々なことを考えることのできる、様々な場面でも柔軟に対応できる選手になって下さい。人間性を磨き、常に感謝の気持ちを忘れず日々精進して下さい」と学生たちのさらなる飛躍に向けて、激励の言葉が述べられました。

同受賞式終了後、スポーツ功労賞（団体）を受賞した男子サッカー部の石川隆太副主将（体育学科3年一栃木SCユース出身）は「インカレでベスト8に入ったが、自分は明治大戦の前半しか出場機会がなかった。悔しい気持ちの方が大きい。今年は昨年以上の成績を残せるように燃えている」と話し、闘志をみなぎらせていました。

来年度も大いに活躍が期待される本学の学生たちに、温かいご声援をよろしくお願い致します。



## 平成26年度カリフォルニア州立大学ロングビーチ校日米スポーツ科学事情比較セミナー



2015年2月15日～3月2日（現地研修期間：2月16日～2月28日）に平成26年度カリフォルニア州立大学ロングビーチ校における短期研修「日米スポーツ科学事情比較セミナー」が実施されました。参加者は体育学科より加藤稔樹（3年）、杉山瑠惟（3年）、佐藤鈴香（2年）、相馬健佑（2年）、津田玲奈（2年）の5名、そして運動栄養学科からも同じく5名で三浦貴哉（3年）、小野寺史益（1年）、菅野祐未（1年）、小島萌里（1年）、堀内くるみ（1年）の計10名という構成でした。教職員引率者は全日程に石森靖明氏（事業戦略室）と弓田恵里香、そして2週目に渡部由香助教が合流しました。

当プログラムはこれまで「スポーツマネジメントとスポーツ栄養」に特化した内容となっていました。今年度より「スポーツ科学」とテーマの幅を広げ、より多くの学生が参加しやすいよう変更を加えました。その結果、今年度は体育学科コーチング・コースからの参加者もあり、従来の講義に加え「コーチング」に関する授業では、アメリカにおける選手とコーチの関係性やコミュニケーションスキルについて学ぶことができました。施設

見学では、LAダウンタウンを一望できるドジャーススタジアムに行くなど、アメリカならではのスポーツ施設の特徴や雰囲気を目の当たりにすることができました。さらに、プロバスケット



ボールNBAのLAKERS戦を観戦することにより、日本とは異なるスポーツ現場の熱気を肌で感じる事ができ、学生たちにとって忘れられない経験になったと思います。

また、昨年度より取り入れたホームステイは今年度も実施し、学生は2人1組となりロングビーチ校周辺の5家庭に2週間お世話になりました。ホームステイ先はどれもフレンドリーで受け入れ態勢が素晴らしく、週末には水族館、港の朝市、ショッピングモール、ゴルフ場のクラブハウスでの朝食、サーフィンで有名な地元のビーチなど、各家庭が工夫を凝らし、



それぞれがおすすめする場所の案内をしてくれたようです。一方で、中には豆腐ハンバーグなど手料理を作りホストファミリーを喜ばせた学生もいました。当初は英語でのやりとりに苦戦した学生も多かったようですが、最後には涙を流しながらのお別れ



があるほど各家庭との交流を深めていました。本学から学生がロングビーチへ出向くようになり6年目となります。これまでも優秀な学生が多く参加していましたが、今年の参加学生は特に意識が高く、2週間という短期間での語学力向上は目を見張るものがありました。初日のオリエンテーションでの自己紹介から始まり、授業中の英語での質疑応答や発表、現地の職員や学生との交流時間での1対1の英会話、そして最終日の修了式で立派な英語でのスピーチを行うなど、ロングビーチ校の教職員も驚くような力を発揮してくれました。しかし、本人たちに感想を聞くと、加藤稔樹さん（体育学科3年生）は「現地の方に話すときは、わざとゆっくりと話しかけてくれるのがもどかしく、いつかネイティブのスピーディーな会話にもついていけるくらいになりたい」と悔しそうでした。また、津田玲奈さん（体育学科3年生）は「帰国してからも語学力を磨くため、英会話スクールに通うことを検討したい」と意欲的な様子でした。

2013年7月には、ロングビーチ校から初めて学生10名が来日し、約10日間に渡り仙台大学での日米スポーツ文化比較プログラムに参加しました。昨年も同様に学生10名が来日し、双方向の学生の行き来が生まれています。今回私たちのグループが滞在している間に、これまで仙台大学に来日したことがある学生、そして2015年7月に来日予定の学生と会う機会がありました。特に、昨年

仙台へ来た学生たちは、私たちをボウリングに連れて行ってくれたりハンバーガーをごちそうしてくれたり、とても歓迎してくれ、今回参加した



本学の学生は国際交流の醍醐味に触れることができたのではないかと思います。このような新たな友情も含め、学生が滞在中に受けた刺激や感動を、今後の学生生活や将来にぜひ生かしていただければと思います。

本年度もこのように充実したプログラムが実施できたことを関係のみなさまに感謝申し上げ、今後ともご協力いただけますようお願い致します。

<寄稿：助教 弓田恵里香>

## 米国 カリフォルニア州立大学ロングビーチ校 (CSULB) の海外短期研修プログラム参加学生が帰国の報告



仙台大学との協定校であるカリフォルニア州立大学ロングビーチ校 (CSULB) へ海外短期研修プログラムが、平成27年2月16日 (月)～2月28日 (金) に実施され、本学から10名の学生が参加しました。プログラム終了後、3名の学生が阿部学長を訪問し、無事に帰国したことを報告しました。

阿部学長から今回の研修に参加しての感想を尋ねられると、学生は「英語をさらに学ぶ必要があると強く実感した。」「英語で会話する中で、ただ伝えるだけではなく、自分の考えをしっかりと理解してもらうことの難しさと大切さを実感した。」「今回の経験をこれからの将来設計に生かしていきたいと思った。」などと感想を述べていました。



この海外短期研修プログラムは2009年に協定書を交わして以来、今年で6回目の実施となります。一昨年からはCSULBの学生受入れプログラムを実施するなど、年々充実した国際交流が進められています。

＜報告：事業戦略室 石森靖明＞

## 本学でトリムカップ2015が開催される

3月27日 (金)～29日 (日) の3日間、本学第二体育館及び第五体育館で、フットサルの女子日本一を決める「トリムカップ2015第7回全国女子選抜フットサル大会」(主催：日本フットサル連盟・協力：仙台大学) が初めて本学を会場に開催されました。

全国の各地域で予選を勝ち抜いたチームに加え、日本女子選抜チームなど12チームが出場し、熱戦が繰り広げられました。

同大会の3日間、本学の男子サッカー部及びフツ

トサル部員約70名も、ボランティア学生として大会運営(受付・会場誘導案内・警備・ボールボーイなど)に協力し、大会運営が円滑に行なわれました。本学の学生ボランティアは、日本フットサル連盟や関係者から高い評価を頂き、大会は無事に終了しました。

大会運営で学生ボランティアを統括した男子サッカー部の伊勢裕介コーチ(教務課職員)は、「大会運営で、一生懸命頑張る学生たちの姿に心が打たれました。学生たちには、この経験を今後の充実した学生生活につなげてほしいです」と話しました。



各試合とも熱戦が繰り広げられたトリムカップ=仙台大学第五体育館

## 本学のPR看板広告—JR仙台駅2階のクイックビジョンがリニューアル



3月11日（水）から、本学をPRするJR仙台駅2階のクイックビジョン（15秒看板：新幹線乗り場に上がる中央エスカレーター左右サイド／3月11日～3月31日まで無料掲載）のデザインがリニューアルしました。

今回は、2016年リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックを目指している全日本女子柔道監督の南條充寿准教授・2014仁川アジアパラ大会陸上女子砲丸投げで世界新記録を樹立した加藤由希子選手（健康福祉学科3年一宮城・気仙沼女子高校出身）・2013世界体操「あん馬」金メダリストのOB亀山耕平選手（徳洲会体操クラブ／平成22年体育学科卒一埼玉栄高校出身）を起用しました。仙台駅へお立ち寄りの際など、リニューアルした看板広告をご覧頂ければと思います。

次回リニューアルは平成27年10月1日を予定しております。大学及び学科紹介に使用されたい写真やクイックビジョンに関するアイデア等がございましたら、ぜひ広報室までお知らせ下さい。

なお、同じものを学長室前の通路にも掲示しています。

## 全日本柔道選手権東北予選会

男子・仲田助教3連覇逃す、女子・志賀選手(現代武道学科2年)が初代表の座を手にする



準々決勝で、仲田助教が敗れた時は、会場からどよめきが起った。  
＝福島市国体記念体育館



女子は、本学から  
しがるみ  
志賀成美選手(柔道  
2段/現代武道学科2  
年一福島・磐城農業  
高校出身)【写真】  
なかむらゆう

と中村優選手(柔道  
2段/現代武道学科3年一静岡・藤枝順心高校出  
身)が決勝リーグに進みました。志賀選手は1勝  
1敗の2位となり、自身初となる全日本選手権出  
場を決めました。しかし、昨年覇者の中村選手は  
2敗で3位となり、惜しくも2年連続全日本選手  
権出場は果たせませんでした。

志賀選手は、4月19日(日)に横浜文化体育館で  
開催される「第30回全日本女子柔道選手権」に東  
北代表として初出場します。女子の無差別級日本  
一を決める大会で、志賀選手が上位進出を狙いま  
すので、引き続き、温かいご声援をよろしくお願  
い致します。

3月8日(日)、福島市国体記念体育館で「平成27年  
全日本柔道選手権東北予選会」が行なわれました。男  
子は、3連覇を目指した本学の仲田直樹助教(柔道5  
段)が準々決勝で敗れ、5度目の全日本選手権出場を  
逃しました。

## BLS部、有明宏祐選手(運動栄養学科2年)がスケルトン男子ナショナルチームの海外合宿に参加

ソリを手にし、スケルトンのスタート地点に立つ有明選手(左)  
と宮嶋克幸選手(体育学科1年) 〓カナダ・カルガリーオリ  
ンピックパーク



写真：宮嶋選手提供

ありあけこうすけ

本学BLS部の有明宏祐選手(運動栄養学科2年一  
仙台南商業高校出身)が、昨年12月の「全日本スケ  
ルトン選手権」(長野市スパイラル)で9位(2本  
の合計タイム:1分50秒72)に入り、2月1日~10日  
までカナダ・カルガリーで行なわれた男子ナショ  
ナルチームの海外合宿に参加しました。

3月25日(水)、広報室を訪れた有明選手に、課  
題や今後の目標などについてお話を聞きました。



有明宏祐選手

### 初の海外合宿は—

長野市スパイラルと違うコース  
(カナダ・カルガリーオリ  
ンピックパーク)を初めて経験することが  
できました。日本スケルトン界  
の第一人者であるOB越和宏コー  
チ(日本ボブスレー・リ  
ュージュ・スケルトン連盟のスケルト  
ン強化部長/昭和62年体育学科卒)からマンツーマ  
ンで指導を受けられた貴重な合宿となりました。越  
コーチからは、私生活や競技への取組み方まで、競  
技者としての意識を徹底的に叩き込まれました。

### 課題は—

プッシュタイムが遅く、スタート時のスプリント  
が課題です。スケルトンは、氷の上でソリを押し速  
さが必要となります。越コーチからは、氷の上で速  
く走るためには、氷を叩くようなイメージを意識す  
ることが大切であると教わりました。氷を叩くよう  
なイメージが持てるよう動画を活用し、競技力向上  
に役立てていきたいです。

### 今後の目標は—

全日本で6位入賞ができるように頑張っていきたい  
です。そして、来年2月に開催される「スケルトン世  
界ジュニア選手権」に出場したいです。

今年は主将として部内をまとめる立場となり、競  
技面以外でも引っ張る存在として、頑張っていきたい  
と思います。